

8連続での狭さく設置



短いサイクルでの振り返りと追加対策



広域図



稲沢市下津地区

背景の地図の出典: 国土地理院

登録状況	-
対策の内容	狭さく設置 他
備考	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外周の幹線道路(県道)の混雑を避けるための抜け道利用が多い ▶ 地区からの対策要望を受け、過去平成 26 年度にワークショップを実施し、狭さくを含む対策を実施 ▶ 対策の効果、残存課題を踏まえ、更なる改善対策を実施中

設置の
特徴

8連続での狭さく設置

狭さくの概要

設置箇所



背景の地図の出典: 国土地理院

設置内容

	内容	備考
設置箇所数	8箇所	約610m区間に38.2~78.1m間隔
設置時期	2015年6月	
狭さくの形状	<ul style="list-style-type: none"> 狭小部の幅員 3m 最も狭めた箇所の長さ 4m すり付けの角度 30° 	
構造及び 付属施設	<ul style="list-style-type: none"> ゴム製ポール 路側帯のカラー化 	
技術的な工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 連続的に30km/h以下に速度を抑制できるように、既往の調査結果や有識者からの情報提供を参考として約50m間隔で狭さくを配置した ◆ 最も狭めた箇所の車道幅員を一定(3m)に保つこととし、張出し量で調整した ◆ ワークショップによる住民意見を踏まえ、狭小部の幅員を3mとした ◆ 沿道出入りの妨げになる箇所はゴム製ポールを設置しないこととして位置選定に自由度を持たせたことで、一定の間隔(約40~80m)で狭さくを設置でき、連続的な速度抑制につながった ◆ 自転車の通行に配慮し、道路端側のゴム製ポールを一部撤去した ◆ 狭さくの路側帯をカラー化することで、視認性を高めるとともに、歩行者が歩道を通行することを意識できるようにグリーンではない色を採用 ◆ 両側張り出しとすることで、朝・夕の交通の流れの変化に対応 ◆ 両側張り出しにすることで、車両の通行位置を中央に導きやすく従道路からの流入がしやすくなるよう配慮した 	

設置状況



概観



概観



路側帯のカラー化



ゴム製ポール



通行状況



ゴム製ポールの一部撤去

合意形成
のポイント

短いサイクルでの振り返りと追加対策

対策実施状況と合意形成の概要

対策実施状況 (道路管理者の動き)

合意形成の概要

地域要望に対応した検討

- 要望書 (2013.11)



本設置(2015.6~)

- 狭さく設置(8箇所) 他



追加対策(2017.4~)

- 狭さく(ゴム製ポール)の一部撤去
※自転車通行に配慮

2014.9 第1回ワークショップ

- 下津地区における問題点・課題の抽出



意見をマップに整理することで、課題を視える化

2014.11 第2回ワークショップ

- 現地点検による現状の把握、再認識

2015.2 第3回ワークショップ

- 対策案の検討



対策は行政から複数案提示した上で、地域住民主導で設定、実施



有識者から助言を得ることで、対策を実施してみようという意識が形成できた



道路利用者からの苦情に対し、地域住民で検討、設置した旨を説明し、理解を得た

効果検証
(交通量調査、ビデオ調査、ETC2.0分析、アンケート調査)

2016.7 第1回ワークショップ【2巡目】

- 対策の効果検証(ビデオ、アンケート、ETC2.0等)

2016.10 第2回ワークショップ【2巡目】

- 現地点検の実施

2016.12 第3回ワークショップ【2巡目】

- 対策案の検討

2017.2 第4回ワークショップ【2巡目】

- 対策に向けた地域住民との合意形成

PDCA の中での合意形成の内容とポイント

段階	説明手法・内容	道路管理者の考える合意形成のポイント 
現況調査 計画策定 <Plan>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ ワークショップ(2014年度第1回下津地区における問題点・課題の抽出) <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2014年9月6日 参加者 地元区長、地区まちづくり協議会、小学校PTA、小学校、警察、道路管理者(県、市)、学識者 内容 下津地区における問題点・課題の抽出 ❖ ワークショップ(2014年度第2回 現地点検の実施) <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2014年11月22日 参加者 地元区長、地区まちづくり協議会、小学校PTA、小学校、警察、道路管理者(県、市)、学識者 内容 現地点検の実施 ❖ ワークショップ(2014年度第3回 市道00-231号線における対策) <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2015年2月7日 参加者 地元区長、地区まちづくり協議会、小学校PTA、小学校、警察、道路管理者(県、市)、学識者 内容 対策案の検討 	<ul style="list-style-type: none"> •意見をマップに整理することで、課題を視える化した •地域が考える「必要な対策」について、市とワークショップで議論し、計画を相互に理解 •対策は行政から複数案提示した上で、地域住民主導で設定、実施 •有識者から助言を得ることで、対策を実施してみようという意識が形成できた
対策実施 <Do>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 本設置 <ul style="list-style-type: none"> 運用開始 2015年6月 内容 狭さく8箇所設置 	<ul style="list-style-type: none"> •道路利用者からの苦情に対し、地域住民で検討、設置した対策であることを説明することで、理解を得た
評価 <Check>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ ワークショップ(2016年度第1回 対策の効果と課題を考える) <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2016年7月16日 参加者 地元区長、地区まちづくり協議会、小学校PTA、小学校、警察、道路管理者(県、市)、学識者 提示資料 交通量調査結果、ビデオ調査結果、アンケート調査結果、ETC2.0プローブ分析結果 	<ul style="list-style-type: none"> •各種調査結果から、具体的な効果と残存課題を共有
対策改善 <Action>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ ワークショップ(2016年度第2回 現地点検を行い対策案を考える) <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2016年10月16日 参加者 地元区長、地区まちづくり協議会、小学校PTA、小学校、警察、道路管理者(県、市)、学識者 内容 現地点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> •専門家の意見を聞きながら地域主導でさらなる改善への意見交換
計画策定 <Plan> 【2巡目】	<ul style="list-style-type: none"> ❖ ワークショップ(2016年度第3回 実施に向けて対策案をまとめる) <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2016年12月11日 参加者 地元区長、地区まちづくり協議会、小学校PTA、小学校、警察、道路管理者(県、市)、学識者 内容 対策案の検討 ❖ ワークショップ(第4回 実施・要望する対策について確認) <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2017年2月19日 参加者 地元区長、地区まちづくり協議会、小学校PTA、小学校、警察、道路管理者(県、市)、学識者 内容 地域住民との合意形成 	<ul style="list-style-type: none"> •専門家や関係機関の意見により、効果的な改善策を具体化するとともに、「地域の皆さんが模範となるような通行を」といった啓発により、地域の交通安全に対する更なる意識向上が図れた
対策実施 <Do> 【2巡目】	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 追加対策 <ul style="list-style-type: none"> 運用開始 2017年4月 内容 狭さく(ゴム製ポール)の一部撤去 	<ul style="list-style-type: none"> •ワークショップ意見(自転車が通りづらい)を反映し、ゴム製ポールを撤去
評価 <Check> 【2巡目】		

合意形成における道路管理者からみた特筆事項

円滑な検討に 結びついた点	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 第三者として有識者に参画してもらったことで、行政からの押しつけでない検討の場となり、ワークショップ参加者の積極的な意見交換ができた。 ◆ ワークショップをグループ討議形式にすることで、より意見を出してもらいやすい環境とできた。 ◆ 交通量調査結果等、検討に必要な定量的なデータを迅速に提供できた
考えられる 今後の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 課題となっていた路線に集中的に対策を行ったが、今後、周辺地区からの要望があれば、ゾーンとしての対策も検討したい。